福井大学リポジトリ
UNIVERSITY OF FUKUI REPOSITORY

大学生の英語速読力の推移

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-05-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤枝, 宏壽 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/5388

福井医科大学一般教育紀要　第15号　(1995)

大学生の英語速読力の推移

藤　枝　宏　壽
英語教室

(平成7年10月11日受理)

The Progress of College Students' Fast Reading Ability

Koju FUJIEDA
Department of English

Abstract : In the wake of the Fujieda report (1986) on the college students' fast reading ability covering 1982 through 1986, this is a report of the achievements of the fas treading course students from 1989 through 1993. The data (WPM and RATE) of the Pretest (T1), the Midtest (T2), and the Posttest (T3) were analyzed and compared first among the classes of the five years, sometimes contrasting the Good and Poor groups, and then with the data of the previous report. The findings were as follows :

1 In Test 1 the average reading speed was 86 WPM and RATE was 45.
2 In Test 3 the average reading speed was 154 WPM (attaining the aimed 150 WPM), and RATE was 102.
3 The progress ratio of RATE (2.3 times) was greater than that of WPM (1.8 times), indicating that comprehension ability was also improved.
4 In Test 3 the Good group attained 191 WPM (2.1 times) and 152 in RATE (2.9 times), while the Poor attained 129 WPM (1.6 times) and 59 in RATE (1.6 times). This indicates that the Good made far greater progress with reading speed, and especially with comprehension.
5 The top fast readers (n=51) finally attained 227 WPM and 180 in RATE.
6 Of the top group, the sex ratio was 4 males vs 1 female, and the admitees right after high school graduation were 22%.
7 In Test 1, there is a slight improvement (78 WPM→86 WPM;RATE 42→45) seen from the 1982-1986 classes to the 1989-1993.
8 The 1989-1993 average Test 3 results (154WPM−1.8 times;RATE 102−2.0 Times) were a great improvement over the 1982-1986 average (128 WPM−1.6 times;RATE 86−2.0 times).
9 Greater progress, comparing the former five-year average with the latter, was observed with the Good group (150 WPM→191 WPM;RATE 121→152) than the Poor group (111 WPM→129 WPM;RATE 55→59).

Concerning the above findings, fast reading materials, training techniques, CALL, etc. are discussed.

Key Words : Fast Reading, WPM, Skimming, English Education

藤 枝 宏 壽

1 緒 言

大学一般教養課程の英語教育において，速読力養成が必須の要件の一つであることは，すでに藤枝（1986）で述べたとおりであり，年々複雑多様化していく情報化社会の中で，その必要性はいよいよ増大してきているといわねばならない。本学においても1982年（開学3年目）に速読訓練をカリキュラムに組み入れて以来，一貫してこれを継続してきており，13年余を経過した今日，その成果を再点検すべき段階に至っている。

当初5年間（1982～1986年：以下「前期5年」という）の結果については前掲書で発表したが，今回は後半における5年間（1989～1993年：以下「後期5年」という）について，ほぼ前回同様の調査を行い，最近の学生の速読力について分析を試みるとともに，前期5年との比較を行うものである。

比較考量を容易にする背景的知識として，前期5年の速読力調査の主な結果をここに再掲してみよう。

1．訓練前の学生の速読力は78WPMであった。

2．授業で速読訓練をしなければ速読力は伸びなかった。

3．訓練によって全般的伸びは1箇学期で毎分読語数WPMが78→128（1.6倍），理解度（%）が54→67（1.2倍），有効読語速度RATE（WPM×SCORE／10）が42→86（2.0倍）となった。

4．訓練が進むにつれて速読力の上下の差が大きくなった。

5．上位群は訓練と共に順調に伸びた：1学期間でWPMが85→150（1.8倍），RATEが53→121（2.3倍）。

6．下位群は後半特にRATEが低下した：1学期間でWPMが71→111（1.6倍），RATEが33→55（1.7倍）。

以上のような速読訓練の実態は，この12年間において恒常的なものであろうか，もし変化するものであるとすれば，どのように変化しているであろうか。この問に答えるのが本稿の目的である。

2 実 践 研 究

2－1 速読訓練の授業

福井医科大学の“教養課程”における英語は8単位が必修であり，1985年以来1年前期の1単位をLLと速読に当てている。すなわち，100分授業の前半約70分で聴解訓練を行い，後半30分程度を別教材による速読訓練としている。1学期間における訓練回数は，事前・中間・事後3回のテストを除いて，12回であり，その総時間はおおよそ6時間である。

学期当初，速読訓練コースの開始に当たり，速読の必要性を説いた後，事前テストによる各

自の速読力の現状認識，速読力習得の方法（直読直解，黙読，フレーズ読み，能動読み，集中，等）説明，眼球運動活性化作業，などを行い，比較的易しい補助教材から実際の速読訓練に入る。速読訓練の目標は，学期末の事後テストのクラス平均が理解度60～80％で150WPMに達することとする。毎回の訓練後WPMとテストスコアを各自が記録し，向上の励みとする。教材によっては，難しい語句の注を事前に読ませる。夏休みには，翌年のエッセイ・ライティングの準備も兼ねて，*The Kuzuryu Memoirs*（約200頁）の相当部分を多読させる。以上，前期5年とほぼ同様の手法を用いて速読の授業を行った。

なお訓練に使用した教材は表1の通りである。91年度教材の述べ語数（24,050語）が際立って多く，89年（9,250語）は比較的少ないこと，またFlesch Reading Ease Score（RE）によればCMIJACが 'Standard' である他はすべて 'Faerly Easy' か 'Easy' にランクされることなどが特徴的である。

表1　　速読訓練用の教材

年度	教科書	1課当語数	1回当課数	速読課数	述べ語数	RE*	WPM(RATE) 伸び率
1989	OAIA	350－380	2－3	25	9250	58.3 FE	1.5 (2.3)
1990	SW	430－970	1	11	7790	67.2 E	2.0 (2.6)
	CMIJAC	410－560	2	11	6440	50.3 ST	
1991	RFAB	920－3070	1－2	15	24050	75.5 E	1.6 (1.9)
1992	TGU (SUPL)	290－900	1－2	15	8380 (3000)	76.1 E	2.1 (2.6)
1993	AP	590－1010	1－2	16	13280	59.9 FE	1.8 (2.1)

教科書略号：OAIA＝*Once Again in America*（英宝社）
SM＝*Students Write*（Scott, Foresman）
CMIJAC＝*Common Misunderstandings in Japanese-American Communication*（金星堂）
RFAB＝*Reading Faster and Better*（Seido）
TGU＝*The Great Unknown*（マクミラン）
AP＝*American Pictures*（朝日出版社）
SUPL＝補助教材併用

*RE＝Flesch Reading Ease Score（ST＝Standard, FE＝Fairly Easy, E＝Easy）

2－2　調査方法

毎年度1年生の前期に行った速読指導の成果は，安藤・Sell（1971）の*Faster Reading in English*付属のテスト（Test 1，Test 2，Test 3）をそれぞれ訓練開始前（4月），中間（6月），および訓練終了時（9月）に行い，そのWPM，理解度テストのSCORE（10点満点），およびRATEによって測定した。なお，集団内部の速読力習得状況を分析するため，統計処理にあたって，対象者をMEAN（全員），GOOD（Test 3の上位25人），POOR（Test 3の下位25人）の3群に分けて，それぞれWPM，SCORE，RATEについての平均，最高，最低，標準偏差等を算出した。また，必要に応じて平均の差のt検定や，相関係数の算出も行った。

2－3　調査の結果

後期５年（89～93年）の速読訓練の結果の概略を表２，表３に，その詳細を本稿末尾の付表１に示す。それに基づいて，Test１からTest３にかけてのWPMとRATEの伸びを年度毎，群別にグラフで示したのが図１である。図２は，訓練開始前（Test１）の速読力について，これを前期５年から後期５年まで通してその年次推移を見たものであり，同じく群別にWPMとRATEで示してある。同様に訓練終了時（Test３）の速読力について示したのが図３である。

（１）後期５年の訓練前の速読力

後期５年（89～93年）の訓練前の読語速度（WPM）は表２に示すとおり，87.3～82.8～90.6 WPMと，91年を底に中だるみ状を呈しており（図２－１参照），91年（82.8）と93年（90.6）との間には有意差（t＝2.8257）もある。しかし，後期５年間の平均をとれば，訓練前の読語速度は85.8WPMとなる。訓練前のRATEは，41.5～52.5～46.9と，今度は逆に91年度がピークになっており，平均は44.7である。

91年度生のこの特異な現象は，その内容理解度SCOREが，他の４年度（4.6～5.2）に抜きんでて6.3と高いことに起因する。（付表１参照）すなわち，91年度生は速読のスピードよりも内容把握を重視しようとする従来の”精読型”的性格が強いことを示すものである。この傾向がその後の速読訓練結果にどのような影響をもたらすか，注意すべき点であろう。

表２　　速読訓練の成績（89～90年）　《クラス平均》

	89　年	90　年	91　年	92　年	93　年	平　均
人　　数	100	97	94	96	92	479
T1 WPM	87.3	84.8	82.8	83.8	90.6	85.8
T3 WPM	135.1	168.1	131.1	174.0	162.8	154.0
WPM伸び率	1.5	2.0	1.6	2.1	1.8	1.8
T1 RATE	41.5	41.2	52.5	42.0	46.9	44.7
T3 RATE	96.7	108.4	97.3	108.9	99.5	102.2
RATE伸び率	2.3	2.6	1.9	2.6	2.1	2.3

（２）後期５年の訓練による速読力の伸び

ａ．年度別比較

１学期（実質３ヵ月）の間，述べ６時間の訓練によって，後期５年の学生がそれぞれの訓練終了時点（Ｔ３）で到達した読語速度は，131.1～174.0WPM（平均154WPM）であり，Ｔ１（平均85.8WPM）からの伸び率は1.5～2.1倍（平均1.8倍）である。同様にRATEは，96.7～108.9（平均102.2）に達し，それはＴ１のRATE（平均44.7）の1.9～2.6倍（平均2.3倍）になる。WPMよりもRATEの伸び率の方が大きい。

次ぎに，中間測定（T２）によって形成される伸びの方のパターンに注目すれば（図１参照），主として91～93年度にみられる”中折れ型”が多い。これは前期５年でも多くみられたタイプであり，夏休みでの中断，T２とT３のテスト特性のためにやむを得ない現象ともいえるが，90年度生，89年度生は”尻上がり型”乃至は”直線型”を呈しており，理想的な伸び方も可能であることを示唆している。

b．群別比較

主として表３により，上位群（Good）・下位群（Poor）の速読習得の特性をみる。上位群の読語速度は，T１の85.1～99.8WPM（平均91.6WPM）からT３の166.6～216.1WPM（平均190.7WPM）へと飛躍的に増加し，伸び率は1.7～2.4倍（平均2.1倍）を記録している。訓練の後半（T２－T３）で伸び方がやや鈍化する傾向が見られるが，概ね順調に伸展している。さらにRATEにおいては，T１で42.7～59.2（平均52.1），T３で141.8～167.1（平均151.9）を記録し，伸び率は実に2.4～3.8（平均2.9）倍という高率を示している。WPMよりもRATEの伸び率が0.9倍も高いということは，特に上位群では速読訓練の進行にと伴い，読む速さが増すと同時に，理解度（SCORE）も向上していることを意味するものである。（表４参照）

他方，下位群のWPMはT１で74.8～83.8（平均79.2），T３で109.1～152.4（平均129.2），伸び率は1.4～1.8倍（平均1.6倍）であり，RATEはT１の27.3～48.3（平均36.8）からT３の54.8～61.3（平均58.5）へ，1.2～2.1倍（平均1.6倍）の伸びである。しかし，T２～T３にかけてWPMの伸びの鈍化が目立ち，RATEにおいては下降さへしている，特に91年～93年にその傾向が著しい。

表３　速読訓練の成績（89～90年）　《上位・下位群別》

（人数は上・下各25人）

		89　年	89　年	89　年	89　年	89　年	平　均
T１ WPM	Good	99.8	91.2	85.1	88.3	98.6	91.6
	Poor	75.3	74.8	78.6	83.8	83.7	79.2
T２ WPM	Good	171.0	216.1	166.6	213.0	186.9	190.7
	Poor	109.1	130.4	109.5	152.4	144.7	129.2
WPM伸び率	Good	1.7	2.4	2.0	2.4	2.0	2.1
	Poor	1.4	1.7	1.4	1.8	1.7	1.6
T１ RATE	Good	53.8	42.7	59.2	48.4	56.2	52.1
	Poor	27.3	34.4	48.3	35.3	38.5	36.8
T３ RATE	Good	142.0	162.4	141.8	167.1	146.3	151.9
	Poor	57.4	54.8	57.7	61.3	61.1	58.5
RETA伸び率	Good	2.6	3.8	2.4	3.5	2.6	2.9
	Poor	2.1	1.6	1.2	1.7	1.6	1.6

表４　理解度（SCORE）の変化（後期５年平均）

《上位・下位群別》

	T１	T２	T３
Good	5.6	7.6	8.2
Poor	4.6	6.4	4.8

他方，下位群のWPMはT１で74.8～83.8（平均79.2），T３で109.1～152.4（平均129.2），伸び率は1.4～1.8倍（平均1.6倍）であり，RATEはT１の27.3～48.3（平均36.8）からT３の54.8～61.3（平均58.5)へ，1.2～2.1倍（平均1.6倍）の伸びである。しかし，T２からT３にかけてWPMの伸びの鈍化が目立ち，RATEにおいては下降さへしている。特に91年～93年にその傾向が著しい。

上位群と下位群の差を出発点（T１）→到達点（T３）で比較すると，WPMの群差は12.4→61.5（伸び率の群差は0.5倍）であり，RATEでは15.3→93.4の大差（伸び率の群差は1.3倍）を生じている。これは上位群の方がはるかに速読力習得において勝っていることを示すと同時に，下位群は，読む速度を上げれば，理解度が下がることを物語っている。(表４参照)

ｃ．速読力習得優秀者

訓練を開始するに当って，クラス平均が150WPMを越すことを目標にしたが，それは優に達成され，さらにRATEにおいても150を越える”速読力習得優秀者”が毎年輩出し，５年間の訓練対象者計479名中”優秀者”は51名（全体の10.6%）に達した。(付表２参照）上位群の５年間平均のRATEが151.9であるので，上記の”速読優秀者”は上位群の中の更に上位半分に当たる。読む速度の最高は455WPM，300WPM以上は６人，それらを含んで200WPM以上が31人おり，優秀者51人の平均は227WPMである。RATEでは最高が307で，200以上に達した者が７人，平均は180である。伸び率はWPMで平均2.4倍，最高は5.3倍であり，RATEでは平均3.9倍，最高は8.3倍と極めて高い。

男女別では，51人中男性が40人と圧倒的に多く，女性は少ない（21.6%)。因みにクラス全体に占める女性の割合は，後期５年間平均で31%である。

高校卒業後の経過年数（経年）で分析すると，51人中の「現役」は11人で21.6%［因みに，クラス全体に占める現役の割合は，５年間の平均で29.2%である］，「１浪」が19人で37.3%［同35.8%］，「２浪以上」が21人で41.2%［同34.6%］，その内大学中退者は５人である。速読優秀者の中では経年が多い者の比率がやや高いようではあるが，現役も相当に入っていることは注目に値する。

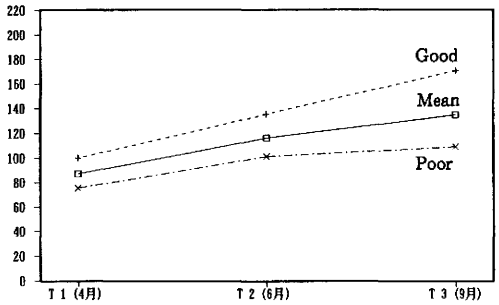
（３）前期５年と後期５年との比較

ａ．訓練前の速読力

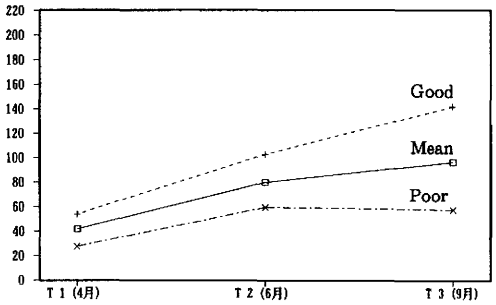
訓練開始前の読語速度は，前期５年が65.8～86.0WPM（平均78WPM）であったのに対し，後期５年では82.8～90.6WPM（平均85.8WPM）と高く，前期当初の82年（65.8WPM）から後期の最終年93年（90.6WPM）を望むと（図２参照)，多少の凹凸はあっても，全般的に上昇調を示している。現にその両年度のWPMの間には，大きな有意差（$t=10.6737$　$p<0.001$）が検証されている。RATEにおいても，前期５年の39.5～47.1（平均43.1）に対して，後期５

図1　訓練による速読力（WPM、RATE）の伸び（89～93年）

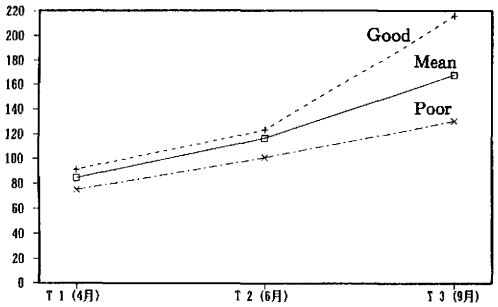
(1) 89年生 WPM



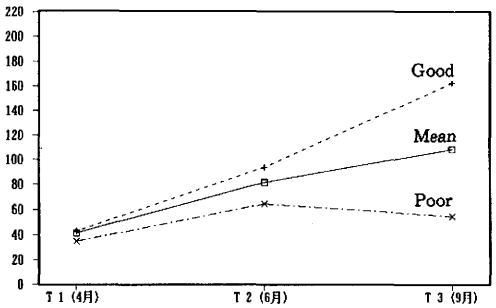
(2) 89年生 RATE



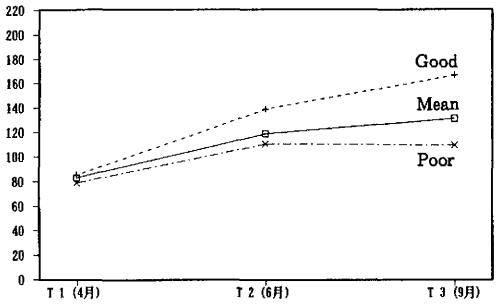
(3) 90年生 WPM



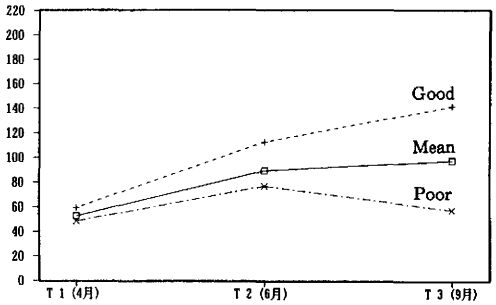
(4) 90年生 RATE



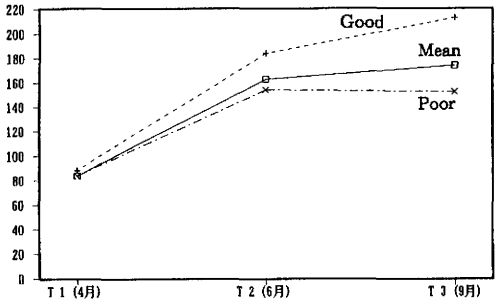
(5) 91年生 WPM



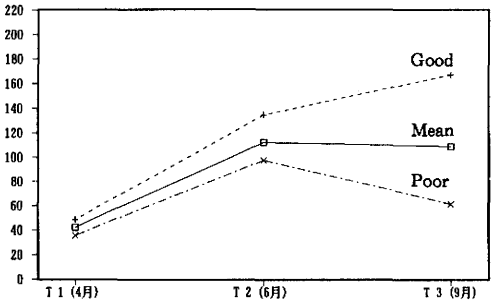
(6) 91年生 RATE



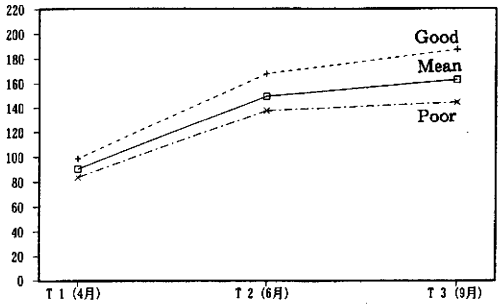
(7) 92年生 WPM



(8) 92年生 RATE



(9) 93年生 WPM



(10) 93年生 RATE

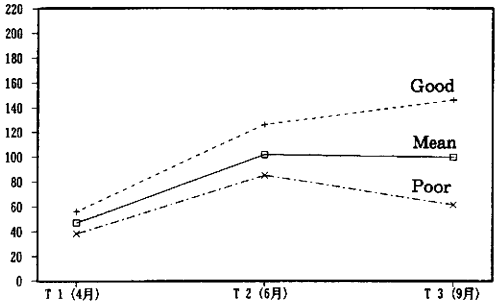
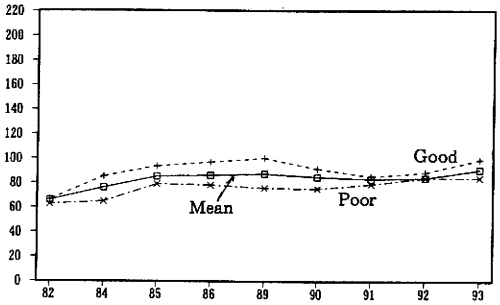


図2　訓練開始前（T1）の速読力（WPM，RATE）の年次推移（82～93年）

(1) 82～93年生 T1 (WPM)



(2) 82～93年生 T1 (RATE)

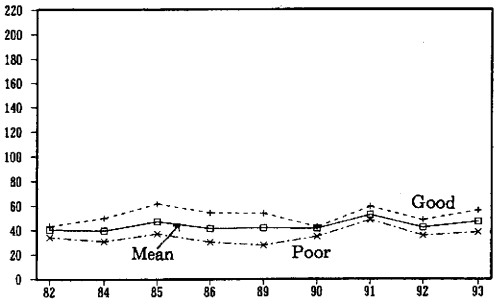
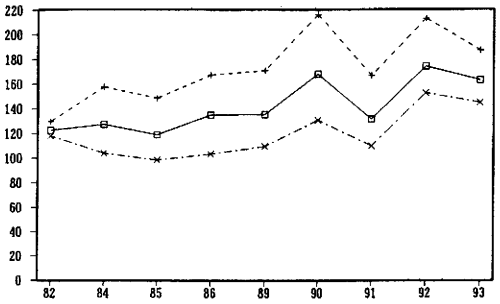
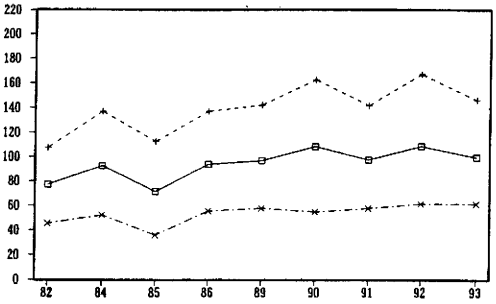


図3　訓練終了時（T3）の速読力（WPM，RATE）の年次推移（82～93年）

(1) 82～93年生 T3 (WPM)



(2) 82～93年生 T3 (RATE)



年は41.5～52.5（平均44.7）と高く，89年度のRATE（40.5）と93年度のRATE（46.9）の間でも，やはり有意差（$t=2.4275$　$p<0.02$）が認められる。

以上の結果は，入学生の訓練前の速読力が過去12年の中に徐々に上昇してきていることを示すものである。このことはすでに藤枝（1993）でも触れていることであり，入学生の他の英語学力の上昇傾向と関連づけて勘案すべきであろう。

b．訓練による速読力の伸び

特に注目すべきは，速読訓練の効果である。前期5年における1学期間の訓練で到達した速読力（T3）は，読語速度で119～135WPM（平均128WPM），伸び率が1.4～1.9倍（平均1.6倍），有効読語数RATEで71～98（平均86），その伸び率が1.5～2.3倍（平均2.0倍）であった。それに対し，後期5年の成績は，上記（2）－bで示したように，平均で154WPM，伸び率1.8倍，RATEの平均が102.2，ひの伸び率が2.3倍と向上してきている。（図3参照）

表5　前期5年間・後期5年間の平均速読力の比較

区　　分	前期5年間平均 Mean（Good／Poor）	後期5年間平均 Mean（Good／Poor）
訓練前（T1）の平均WPM 訓練後（T3）の平均WPM WPMの伸び率	78（85／71） 128（150／111） 1.6（1.8／1.6）	86（92／79） 154（191／129） 1.8（2.1／1.6）
訓練前（T1）の平均RATE 訓練後（T3）の平均RATE RATEの伸び率	42（53／33） 86（121／55） 2.0（2.3／1.7）	45（52／37） 102（152／59） 2.3（2.9／1.6）

両期間の各平均値だけを示して，比較を容易にしたのが表5であるが，訓練前の前・後期の差よりも，訓練後の差の方が大きい。つまり，後期5年間の方が訓練効果が大であったことを示すものである。

前期5年・後期5年の対比を，上位・下位2群に分けて観察することは興味深い。すなわち，訓練前のT1における前・後期の差は，上位群が（92－85＝）7WPM，下位群が（79－71＝）8WPMと，群間ではほとんど差がないのに対し，訓練後のT3においては，上位群の差（191－150＝）41WPMに対し，下位群の差は（129－111＝）18WPMと，大きく下回っている。後期の上位群の読語速度の伸展が著しいことを示すものである。

RATEにおいては如何であろうか。T1で上位群の前・後期差は平均で（52－53＝）－1，下位群は（37－33＝）4と大差がないのに対し，T3では上位群の差（152－121＝）31と下位群の差（59－55＝）4にはまた大差がある。速度においても，理解度においても後期5年の上位群の伸びが比較的大であったことがわかる。このことは，前期5年の後半3年間におけるRATE150以上達成者の数が11名であったのに対し，後期の後半3年間では30名に及んでいることにも現れている。

（4）結果のまとめ

以上の結果を整理すれば次のとおりとなる。

〈A〉後期5年の速読力（平均）について

1 訓練前は85.8WPM，RATE44.7であった。

2 訓練後は154WPM，RATEで102.2に伸び，訓練前の目標（150WPM）は達成した。

3 訓練によるWPMの伸び率は1.8倍，RATEは2.3倍で，RATEの伸び率の方が高い。

4 上位群は190.7WPM（2.1倍），RATEで151.9（2.9倍）に伸び，
下位群は129.2WPM（1.6倍），RATEで 58.5（1.6倍）に伸びた。

5 上位群の方が速読の伸び率が大きく，しかも意味理解の伸びがさらに大きい。

6 速読優秀者（上位群の上半）は訓練後平均で227WPM（最高455WPMを含め300WPM以上が6人），RATEで180を記録した。

7 優秀者の男女比は4：1であり，現役は22％である。

〈B〉前期5年と後期5年との速読力の比較

8 訓練前の速読力は前期5年から後期5年にかけてわずかながら向上した（78WPM→86WPM；RATEで42→45）。

9 訓練によって到達した速読力も前期5年から後期5年にかけて大きく向上し（128WPM→154WPM；RATEで86→102），従って伸び率も高くなった（WPM：1.6→1.8倍；RATE：2.0→2.3倍）。

10 前期5年から後期5年への速読力の向上は，下位群（111WPM→129WPM；RATE55→59）よりも上位群（150WPM→191WPM；RATE121→152）において大きく認められた。

2－4 考　察

（1）伸び率の低い年度と教材

前期5年に比べて後期5年が全体としては速読力を向上させていることは，既に述べたとおりであるが，その中で比較的成績のよくなかった89年と91年について考察する。（図2，図3参照）

89年生については，訓練前のWPM87.3が後期5年の中で第2位であったのに，訓練後は最低の91年（131.1WPM）に次いで低く（135.1WPM），伸び率は最低の1.5倍である。速読訓練の諸条件は年度によって変えてはいない。ただ教材は毎年市販の教科書を使用するので，多少変化がある。89年度は使用した教科書の内容量が5年の中で最少（9,250語）であった（表1参照：他の年度は24,050～11,380語）ことが一つの要因であると考えられる。

91年度は，90年から93年にかけて上昇しだした速読力（WPM，RATE）の流れの中で，落ち込みが目立つ。（図3参照）　それは，2－3（1）で言及したように，91年度生が訓練前から持っていた”精読固執”の性向が最後まで抜けきらなかったことを示すものといえよう。

また，この年度の教材は特に速読教材として作られたものであるが，量が多すぎた(24,050語で５年間中最高。次位は90年度の14,000語）きらいがある。緊張の持続可能な時間的限度，読後の理解度テストに必要な記憶量などを勘案すれば，特にEnglish As a Foreign Language (EFL）の学生にとって１回の訓練に適した時間，読語数には自ずから決まる最適値があろう。

13年間にわたる経験上，現行の条件は本学の学生に適していると思われる。すなわち，300～500語の文章を２～３個，３０分間程度ずつ速読訓練し，１学期で成果をみるというものである。しかし，訓練期間の始めの部分では，もう少し集中的に訓練を行って早く速読の領域に引き上げ，その後は今のようなペースで漸次向上を計るという方法も考えられよう。

（２）教材Grade化の必要性

後期５年の速読優秀者51人が平均で227WPMを達成したとはいえ，藤枝（1986）でも報告したように，それはまだ米国の大学生の通常の速読力280WPMにもまだ達していない。EFLだからと言って甘えてはおれない。EFL学習者に適合した速読習得法をさらに研究し，実践していかねばならない。

その一つとして，速読訓練の個別化が考えられる。上述のような優秀者と，100WPMにも満たない者とを，同一の教材で，同じ時間制限で訓練することの非能率は改善されるべきであろう。それについては教材のGrade化と訓練法の最適化が考えられねばならない。

まず速読教材の題材は，直読直解ができるexpository writingかnarrativeが適している。判読，解読，熟読玩味を要求するような煩鎖な，抽象的なもの，専門的なものは避けるべきである。

次ぎに速読の教材はどのレベルからでも使えるように，例えば５段階ぐらいにgrade化される必要がある。教材の読み易さ（Readability）の順にgradeをつけて編集・配列され，Pre-testの結果によって，学習者が自分に適したところから始め，進歩に合わせて上のgradeに上がっていけるようにするべきである。１回の速読の量（語数）も初級と上級では差があってよい。(例えばGrade １では200～300語；Grade ５では1,000～2,000語)。

Readabilityには，構文，語彙，文体などの要素が関わってくる。FleschのReading Easeは米国などでよく利用されているscaleの１つであり，参考にはなろうが，日本におけるEFLという特殊事情を勘案して，やはり教師の目でgradeの最終判断をしたほうがよい。その意味では現行以前の中学（３年)，高校の教科書や，副読本などを利用するのも，一つの方法であろう。

直接の教材ではないが，速読力を測定する標準テストの作製も望まれるところである。聴解については，JACETなどから何種類か出ているが，速読については安藤・Sell（1971）の付属テスト以外によいものがない。安藤氏らのテストもT１～T７の難易度の均一性，設問の適切さなどで問題がある。上述の教材grade化という観点からすれば，速読の標準テストにもgradeを考慮したものが望まれるし，文体・設問についても適切な配慮が必要である。

特に設問については，毎回の訓練でのComprehension Testで必要になることであるが，読んだpassgeの中心的（global）情報について問うものと，context上かなり重要なdetailsについて問うものとを適当な比率で（例えば2：3）出題することが必要である。配点に重み付けを考慮してもよい。

（3）速読指導上の工夫

初級者については，まず眼球運動の訓練から始める。（国内出版の速読テキストで，眼球運動の頁を含んでいるものはないようだ。要するに日本人のための本格的英文速読の教材がまだ完備していないのである。）次ぎに英文の速読は，十分に読みやすいgradeから始めて，まずスピードの達成感をもたせ，速続の自信，喜びを味合わせて，速読へのmotivationをつくることが大切である。また，とうしても100WPMにも達しない者には，もし教材に付属していれば，カセットテープ（130WPM程度）を"伴走"させて，スピードアップを謀ることも有効であろう。（これはすでに実験して効果を実感した方法であるが，初級者に限らねばならない。真の速読にはinner vocalizationさえも禁じられているからである。）

上級者（例えば150WPM到達者）については，Shirley Rudd（1989，pp. 99-119）の言うようなskimmingや普通に言われているようなscanningを始めるべきであろう。これまでは文頭から順を追っ速く読む通常の速読をクラス全体に一様に指導してきたので，これらの方法はまだ用いていない。アメリカの速読の本などで言う500WPM，2000WPMなどというスピードはskimmingやscanningなしには不可能である。skimmingやscanningの段階で訓練すれば，日本人学生でも400～500WPMの達成は不可能ではなかろう。国内出版の速読のテキストにも，ここまでの展開を盛り込んだものが望まれる。

（4）CALLによる速読訓練の可能性

Computer-Assisted Language Learningにおいて，速読を訓練する方法もある。その利点の最たるものは，速読訓練の個別化である。まず各種レベルの速読教材の大量保有，個人の能力や興味に合わせた速読材料の選択，文章の呈示方法の選択，呈示速度の選択，語彙へのヘルプ，WPMと理解度の即時フイードバックおよび個人別記録等，コンピュータの機能を駆使して，個人のペースで訓練できることが最大のメリットである。また，図書館的利用ができれば，いつでも訓練を重ねることができ，上級，初級を問わず，速読力の向上が期待できる。

しかし，難点がないわけではない。CRTの精度如何による視覚的疲労，また普通の印刷文字を紙上で読むのとは異なる違和感，文字や行が物理的に画面から消えていくような時間的制約の心理的影響，skimmingやscanningのしにくさ，利用場所制限などの問題が生じうる。しかしながら，今後技術の進歩によって解決される点もあろうし，世の中全体がコンピュータ化に向かっている今日，早晩この方式にも実際的に取り組まねばならなくなるであろう。

3 結　　論

自動車の運転における速度感覚は人により，道路状況により，また慣れによって異なる。高速道路を半日も運転すれば，時速100キロはもう通常の感覚となろう。同様に文書を読む速度も大ざっぱに言えば，慣れの問題である。80WPMが習慣となっていれば，いつまでもその速度が 'comfortable' なのである。自分から変えようとはしない。精読を主とする高校での英語教育・受験勉強を終わって大学に入り，もしそのままの読語速度に安住していたならば，一生涯における情報量の損失は計り知れないものとなるであろう。大学における英語教育にはそれなりの独自性がなければならない。本学における速読訓練がその意味で長年展開されてきていることは，以前にも述べたとおりであるが，今回，その跡を振り返り，最近の本学学生の英語速読習得の実態調査を終えて，概ね好ましい成果を報告できたこと，また将来への展望をも持ちえたことは，今後の教育に大きな励みとなるものである。まじめに速読訓練に取り組んでくれた学生諸君に敬意を表して，この稿を終えたい。

参 考 文 献

安藤昭一，David Sell (1971)，*Faster Reading in English.* 英潮社新社。

Frank, Stanley D. (1990), *The Evelyn Wood 7-Day Speed Reading & Learning Program.* Avon Books.

藤枝宏壽 (1986)，「大学生の英語速度力習得の実態と問題点」『福井医科大学一般教育紀要』第6号。

――― (1993)，「1984～1993年入学性の英語学力調査－聴解・クローズ・速読の断面から－」『福井医科大学一般教育紀要』第13号。

町田隆哉，柳善和，山本涼一，M.T.スタインバーグ (1991)，『コンピュータ利用の英語教育』MediaMix

松村幹男 (編) (1984)，『英語のリーディング』大修館書店。

Miller, W.M. and Sharon Steeler (1979), *Reading Faster and Understanding More.* Littie, Brown and Company.

Mosback, G. and Vivienne Mosback (1976), *Practical Faster Reading.* Cambridge U.P.

Lewis, Norman (1978), *How to Read Better and Faster. Harper & Row.*

Rudd, Shirley (1989), *Time Manage your Reading,* Gower Publishing Co.

付表1

英語速読訓練結果統計一覧（89—93年）

（　　）内は標準偏差値

年度	区分		人数	FRT1 (SD) [89年4月]	FRT2 (SD) [89年6月]	FRT3 (SD) [89年9月]	伸び率 (T3/T1)
89	WPM	MAX		191	249	300	
		GOOD	25	99.8 (28.1)	135.4 (35.1)	171.0 (43.3)	1.7
		MEAN	**100**	**87.3 (87.3)**	**116.1 (26.6)**	**135.1 (35.9)**	**1.5**
		POOR	25	75.3 (20.0)	101.2 (17.1)	109.1 (16.9)	1.4
		MIN		49	67	75	
	SCORE	MAX		10	10	10	
		GOOD	25	5.1 (2.5)	7.6 (1.2)	8.5 (1.1)	1.7
		MEAN	**100**	**4.6 (2.2)**	**6.8 (1.7)**	**7.1 (1.6)**	**1.5**
		POOR	25	3.5 (2.2)	5.9 (1.6)	5.4 (1.2)	1.5
		MIN		0	3	3	
	RATE	MAX		191	224.1	192.6	
		GOOD	25	53.8 (38.7)	102.9 (34.5)	142.0 (21.0)	2.6
		MEAN	**100**	**41.5 (27.4)**	**80.1 (31.5)**	**96.7 (33.7)**	**2.3**
		POOR	25	27.3 (20.0)	59.6 (21.7)	57.4 (11.0)	2.1
		MIN		0	25.2	34.5	
年度	区分		人数	FRT1 (SD) [90年4月]	FRT2 (SD) [90年6月]	FRT3 (SD) [90年9月]	伸び率 (T3/T1)
90	WPM	MAX		257	328	455	
		GOOD	25	91.2 (37.6)	123.2 (32.8)	216.1 (67.0)	2.4
		MEAN	**97**	**84.8 (26.9)**	**116.5 (33.2)**	**168.1 (52.4)**	**2.0**
		POOR	25	74.8 (14.1)	100.8 (16.3)	130.4 (28.5)	1.7
		MIN		46	56	78	
	SCORE	MAX		10	10	10	
		GOOD	25	4.9 (1.8)	7.6 (1.4)	7.8 (1.4)	1.6
		MEAN	**97**	**4.9 (1.8)**	**7.1 (1.6)**	**6.4 (1.9)**	**1.3**
		POOR	25	4.6 (1.5)	6.4 (1.7)	4.4 (1.5)	1.0
		MIN		1	3	1	
	RATE	MAX		109	164	283.2	
		GOOD	25	42.7 (17.4)	93.6 (27.8)	162.4 (31.5)	3.8
		MEAN	**97**	**41.2 (19.0)**	**81.6 (24.6)**	**108.4 (44.0)**	**2.6**
		POOR	25	34.4 (14.1)	64.4 (19.2)	54.8 (15.4)	1.6
		MIN		6	26.1	13.3	
年度	区分		人数	FRT1 (SD) [91年4月]	FRT2 (SD) [91年6月]	FRT3 (SD) [91年9月]	伸び率 (T3/T1)
91	WPM	MAX		164	272	384	
		GOOD	25	85.1 (21.7)	138.7 (38.2)	166.6 (53.0)	2.0
		MEAN	**94**	**82.8 (19.4)**	**119.0 (28.7)**	**131.1 (37.9)**	**1.6**
		POOR	25	78.6 (24.8)	110.5 (25.1)	109.5 (20.0)	1.4
		MIN		41	71	78	
	SCORE	MAX		9	10	10	
		GOOD	25	6.8 (2.0)	8.1 (1.1)	8.7 (1.1)	1.3
		MEAN	**94**	**6.3 (1.9)**	**7.5 (1.6)**	**7.4 (1.6)**	**1.2**
		POOR	25	6.0 (1.9)	7.0 (1.8)	5.4 (1.2)	0.9
		MIN		2	3	3	
	RATE	MAX		147.6	217.6	307.2	
		GOOD	25	59.2 (27.3)	113.0 (37.0)	141.8 (38.5)	2.4
		MEAN	**94**	**52.5 (21.9)**	**89.7 (31.6)**	**97.3 (37.6)**	**1.9**
		POOR	25	48.3 (23.9)	77.2 (26.4)	57.7 (12.0)	1.2
		MIN		9.0	33.6	36.3	

大学生の英語速読力の推移

年度	区	分	人数	FRT1 (SD) [92年4月]	FRT2 (SD) [92年6月]	FRT3 (SD) [92年9月]	伸び率 (T3/T1)
92	WPM	MAX		139	272	309	
		GOOD	25	88.3 (23.3)	184.1 (31.6)	213.0 (46.1)	2.4
		MEAN	**96**	**83.8 (19.9)**	**162.8 (33.3)**	**174.0 (43.2)**	**2.1**
		POOR	25	83.8 (16.4)	154.0 (31.0)	152.4 (30.5)	1.8
		MIN		48	99	92	
	SCORE	MAX		10	10	10	
		GOOD	25	5.5 (2.0)	7.2 (0.9)	8.0 (1.3)	1.5
		MEAN	**96**	**5.1 (2.0)**	**6.9 (1.6)**	**6.3 (1.9)**	**1.2**
		POOR	25	4.4 (2.0)	6.4 (1.6)	4.2 (1.4)	1.0
		MIN		1	2	2	
	RATE	MAX		125.1	226.8	240.3	
		GOOD	25	48.4 (23.1)	134.4 (34.2)	167.1 (28.2)	3.5
		MEAN	**96**	**42.0 (19.5)**	**112.2 (35.5)**	**108.9 (43.6)**	**2.6**
		POOR	25	35.3 (14.8)	97.5 (31.1)	61.3 (12.4)	1.7
		MIN		8.8	32.6	35.4	
年度	区	分	人数	FRT1 (SD) [93年4月]	FRT2 (SD) [93年6月]	FRT3 (SD) [93年9月]	伸び率 (T3/T1)
93	WPM	MAX		172	250	335	
		GOOD	25	98.6 (19.2)	168.0 (39.6)	186.9 (42.5)	2.0
		MEAN	**92**	**90.6 (18.0)**	**149.6 (36.4)**	**162.8 (38.0)**	**1.8**
		POOR	25	83.7 (14.5)	137.7 (28.3)	144.7 (29.7)	1.7
		MIN		63	85	92	
	SCORE	MAX		10	10	10	
		GOOD	25	5.7 (2.2)	7.5 (1.7)	8.0 (1.3)	1.4
		MEAN	**92**	**5.1 (1.8)**	**6.8 (1.7)**	**6.2 (1.9)**	**1.2**
		POOR	25	4.4 (1.6)	6.2 (1.7)	4.4 (1.4)	1.0
		MIN		2	2	1	
	RATE	MAX		98.1	224.1	212.4	
		GOOD	25	56.2 (23.1)	126.3 (43.5)	146.3 (25.8)	2.6
		MEAN	**92**	**46.9 (19.0)**	**101.5 (37.6)**	**99.5 (36.1)**	**2.1**
		POOR	25	38.5 (16.4)	85.1 (29.2)	61.1 (14.4)	1.6
		MIN		12.6	32.0	12.7	
年度	区	分	人数	FRT1 (SD) [4月]	FRT2 (SD) [6月]	FRT3 (SD) [9月]	伸び率 (T3/T1)
89	WPM	MAX		184.6	274.2	356.6	
		GOOD	125	91.6	149.9	190.7	2.1
		MEAN	**479**	**85.8**	**132.5**	**154.0**	**1.8**
		POOR	125	79.2	120.8	129.2	1.6
		MIN		49.4	75.6	83.0	
93	SCORE	MAX		9.8	10	10	
		GOOD	125	5.6	7.6	8.2	1.5
		MEAN	**479**	**5.2**	**7.0**	**6.7**	**1.3**
平		POOR	125	4.6	6.4	4.8	1.0
		MIN		1.2	2.6	2	
均	RATE	MAX		134.2	211.3	247.1	
		GOOD	125	52.1	114.0	151.9	2.9
		MEAN	**479**	**44.7**	**92.8**	**102.2**	**2.3**
		POOR	125	36.8	76.8	58.5	1.6
		MIN		7.3	29.9	26.4	

付表2　　RATE150以上達成者の速読力習得状況（89～93年）

年度	学生	性別	経年*	WPM				SCORE			RATE			
				T1	T2	T3	伸び率	T1	T2	T3	T1	T2	T3	伸び率
89	A1	M	1	143	194	214	1.5	6	8	9	86	155	193	2.2
	A2	M	2	142	175	227	1.6	5	7	8	71	123	182	2.6
	A3	M	5	84	158	300	3.6	6	7	6	50	111	180	3.6
	A4	M	0	191	249	194	1.0	10	9	9	191	224	175	0.9
	A5	M	3	80	169	280	3.5	6	7	6	48	118	168	3.5
	A6	M	1	111	155	163	1.5	8	8	10	89	124	163	1.8
90	B1	M	3	80	117	354	4.4	6	8	8	48	94	283	5.9
	B2	M	1	99	177	216	2.2	4	8	9	40	142	194	4.9
	B3	M	1	92	169	277	3.0	4	4	7	37	68	194	5.3
	B4	M	4	70	86	203	2.9	5	7	9	35	60	183	5.2
	B5	M	1	257	225	455	1.8	2	7	4	51	158	182	3.5
	B6	M	2	102	114	198	1.9	9	9	9	92	103	178	1.9
	B7	M	3	115	107	221	1.9	3	9	8	35	96	177	5.1
	B8	M	2	62	123	196	3.2	4	6	9	25	74	176	7.1
	B9	M	1	103	124	237	2.3	5	8	7	52	99	166	3.2
	B10	M	1	84	108	165	2.0	9	6	10	76	65	165	2.2
	B11	M	1	71	128	178	2.5	3	7	9	21	90	160	7.5
	B12	M	1	68	116	177	2.6	5	9	9	34	104	159	4.7
	B13	M	1	80	122	199	2.5	3	7	8	24	85	159	6.6
	B14	M	1	78	129	262	3.4	6	9	6	47	116	157	3.4
	B15	M	3	74	134	190	2.6	5	7	8	37	94	152	4.1
91	C1	M	1	83	272	384	4.6	8	8	8	66	218	307	4.6
	C2	M	2	69	131	221	3.2	9	7	8	62	92	177	2.8
	C3	M	3	164	180	209	1.3	9	9	8	148	162	167	1.1
	C4	F	0	116	174	207	1.8	8	8	8	93	139	166	1.8
	C5	F	0	97	150	177	1.8	6	7	9	58	105	159	2.7
	C6	M	0	83	155	157	1.9	9	9	10	75	140	157	2.1
	C7	F	0	90	184	155	1.7	7	9	10	63	166	155	2.5
92	D1	M	0	50	123	267	5.3	8	6	9	40	74	240	6.0
	D2	M	4	139	272	292	2.1	9	7	8	125	190	234	1.9
	D3	F	0	101	200	236	2.3	6	9	9	61	180	212	3.5
	D4	F	0	113	198	218	1.9	4	7	9	45	139	196	4.3
	D5	M	1	104	189	236	2.3	6	7	8	62	132	189	3.0
	D6	F	4	118	168	231	2.0	3	6	8	35	101	185	5.2
	D7	M	1	92	167	262	2.8	6	6	7	55	100	183	3.3
	D8	M	2	61	197	257	4.2	4	7	7	24	138	180	7.4
	D9	M	0	61	166	170	2.8	4	7	10	24	116	170	7.0
	D10	M	1	118	204	186	1.6	7	9	9	83	184	167	2.0
	D11	M	3	96	252	198	2.1	2	9	8	19	227	158	8.3
	D12	M	0	87	162	195	2.2	7	9	8	61	146	156	2.6
	D13	M	0	85	190	309	3.6	4	7	5	34	133	155	4.5
	D14	M	1	88	162	153	1.7	4	6	10	35	97	153	4.3
	D15	F	1	134	204	218	1.6	4	7	7	54	143	153	2.8
	D16	M	2	65	184	218	3.4	8	8	7	52	147	153	2.9
93	E1	F	2	93	249	236	2.5	7	9	9	65	224	212	3.3
	E2	M	3	172	230	335	1.9	3	7	6	52	161	201	3.9
	E3	F	2	125	208	207	1.7	7	7	9	88	146	186	2.1
	E4	M	1	90	197	200	2.2	9	8	9	81	158	180	2.2
	E5	F	2	87	194	191	2.2	8	8	9	70	155	172	2.5
	E6	F	1	79	165	182	2.3	4	10	9	32	165	164	5.2
	E7	M	2	90	136	155	1.7	3	6	10	27	82	155	5.7
最高		M:40	0:11	257	272	455	5.3	10	10	10	191	227	307	8.3
平均	N=51	F:11	1:19	101	171	227	2.4	6	8	8	58	131	180	3.9
最低			2+:21	50	86	153	1.0	2	4	4	19	60	152	0.9

*経年＝高校卒業後の経過年数